

打楽器を使って曲をつくろう

― 題名を手掛かりに ―

指導者 東広島市立高美が丘小学校 山内 玲子

本題材と研究との関わり

本題材では、児童の感じ取った打楽器の音色の特徴を出発点に、リズムカードを用いてリズムのつなげ方や重ね方などを試しながら、音楽の縦と横との関係が生み出すよさや面白さを感じ取り、まとまりのある音楽をつくります。どうしたら自分たちの思いや意図に合った音楽になるか、題名を手掛かりに音楽的な見方・考え方を働かせ、試行錯誤しながらつくり上げます。

1. 題材の目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気づき、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) リズム、音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 打楽器を用いた表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

2. 教材

「木片のための音楽」 (ライヒ, S 作曲)

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。 ○思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。	○リズム、音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	○打楽器を用いた表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

4. 題材について

【題材について】

本題材は、学習指導要領（平成29年告示）のA表現（3）ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)を基に設定したものである。

本題材では、比較的容易に音を出すことができる数種類の打楽器を音素材として取り上げる。数種類の打楽器を組み合わせ、それぞれの打楽器の音の特徴や、それらの音やリズムをつなげたり重ねたりすることで生み出されるよさや面白さに気付かせる。また、題名を基に思いや意図を膨らませながら、リズム、音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えさせる。

本題材では、グループで音楽づくりを行う。対話的な学びへの必然性が高まり、児童が音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組むことに適した題材であると考えられる。本題材を通して、音楽づくりの楽しさを感じさせたい。

【児童について】

本学級の児童は、前期に「せんりつづくり」の学習で、決められた和音の構成音の中でいろいろ試しながら自分たちのイメージに合った旋律をつくるという活動を行っている。また、「言葉でリズムアンサンブル」の学習では、呼びかけとこたえや反復、変化を意識して、海外に転校していく友達に贈る音楽をつくった。これらの音楽づくりについては、学級全員が「楽しい」と肯定的に答えており、「自分一人では難しいけど、友達と話し合うとできる」「試したときによい音楽ができると嬉しくなる」など、グループで試しながら音楽をつくったことでより良いものができた経験を理由として挙げている児童が多かった。しかし、「こんな音楽にしたいという思いをもってつくっている」については、7%の児童が「あまり」と答えており、自分の思いをもてずに活動している児童がいることがわかる。

【指導に当たって】

第一次では、教材として「木片のための音楽」を用いる。この作品は、音色の異なるクラベスだけで演奏される楽曲である。導入部分で「木片のための音楽」を児童に聴かせ、「これは、音楽だろうか」と問いを投げかけることで、児童に、音と音楽の違いは何か、音を音楽へと構成するために必要なものは何かを考えさせる。児童は、常時活動等を通じてこれまでに学習してきた音楽を形づくっている要素を挙げながら、この曲が音楽である根拠は何か、どのような要素が含まれる作品なのかを考えるであろう。児童が見付けた根拠を音楽づくりの見通しとしてもたせ、「自分たちも打楽器だけで音楽をつくってみよう」という意欲につなげたい。

第二次では、グループでリズムパターンをつなげたり重ねたりするなど、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる。始め・中・終わりを示したホワイトボードを用いて音やリズムをつないで、グループで音楽の構成を共有しながら音楽をつくっていく。その後、つくった音楽を録音し、客観的に聴かせ、自分たちの作品に題名をつけさせる。題名をつけることで、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えさせ、グループとしての思いや意図をより意識し対話できるようにする。本時は、この題名を手掛かりに、さらに表現を工夫させる。この時、題名やリズムなどは変えず、音色の選び方と重ね方、つなげ方に工夫を焦点化させることで、児童の中でまとまりのある音楽とは何か考えさせたい。題材の最後には、学級で作品の発表会をする。題名を先に提示し発表し合うことで、題名にふさわしい表現になっているか考えさせたい。題名を手掛かりに、音楽を形づくっている要素の何を用いてそれが表現されているか話し合わせることで、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えさせる。学習後の学びの広がりとしては、音楽朝会の活用等を想定している。

【本題材での常時活動】

本題材では、ドラムサークルの手法を参考にした打楽器遊びを常時活動として設定する。児童が半円になって一人一つずつ打楽器を持ち、教師のリードで即興的なリズムアンサンブルを楽しむ。自分で楽器を選んで活動することで、材質の違いによる音の特徴などを感じさせたり、音楽の始まり方や終わり方、リズムや音色の重ね方、つなぎ方などを工夫するよさや面白さに気付かせたりすることをねらいとしている。6パターンのリズムカードを示すことで、それらのリズムを正しく演奏することや、リズムカードを使った図形楽譜の扱いに慣れさせることもできる。一人一人が思いや意図をもって学習活動に参加できるように、音楽づくりの引き出しを増やすための活動として設定する。

5. 研究の視点

- ①音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えているか。
- ②表現に対して思いや意図をもっているか。

6. 指導計画

次	時	主な学習活動（○）引き出したい児童の反応（◎） 常時活動と関連する音楽を形づくっている要素（下線）	常時活動で扱う 音楽を形づくっている要素（♪）
第一次	第1時	課題の設定、情報の収集 ○「木片のための音楽」を聴き、特徴的な音楽を形づくっている要素を見付ける。 ◎音楽のもとを探すと、同じリズムがくり返されたり、重なったりして変化していくのが見付けられたよ。いろんな音色が重なってだんだん音が増えていくと面白いね。 ○自分たちも曲をつくってみたいという意欲をもつ。 ◎打楽器なら、私たちにも曲がつくれそうだね。	打楽器遊び ♪リズム ♪音色 ♪反復 ♪音の重なり
	第2時	整理・分析 ○6種類のリズムカードと、音楽を形づくっている要素を表したカードを手掛かりに構成を考える。 ◎始めはこのリズムをだんだん強くしていったから、終わりは同じリズムをだんだん弱くして終わってみよう。 ○できた作品に題名をつける。 ◎クラベスが同じリズムを刻んでいて、カチツとした感じがするから、ゲームの中の音楽みたい。『ゲームの中の大工さん』という題名はどうか。 ◎いろんな楽器をつかって、音が重なっているのが、虫の音が呼びかけているみたいだね。『秋のはじまり』でどうか。	♪呼びかけとこたえ ♪変化 ♪強弱
第二次	第3時【本時】	まとめ・創造・表現 ○題名によりふさわしい表現となるように、音色や音楽の縦と横との関係を工夫する。 ◎題名が「秋のはじまり」だから、一つずつ音を鳴らしたあとだんだん重ねていくと始まった感じが出るね。 ◎「大工さん」が使う金づちの音を表すために、このリズムをカウベルに変えて演奏したらどうか。 ◎音の重なりがはっきり聞こえる方が、にぎやかな様子で題名のイメージに合っているね。二つの楽器を一緒に演奏してみようか。	♪音色 ♪音楽の縦と横の関係
	第4時	実行・振り返り ○作品を学級で聴き合い、交流することで、音楽をつくる楽しさを共有する。 ◎みんな題名に合った曲になっていてすごい。リズムや音色、重ね方を工夫したら、イメージが変わっている作品ができることがわかった。 ◎音楽朝会で、全校のみんなに題名あてクイズをしてもらったらどうか。ぼくたちのイメージが、みんなに伝わるか試してみたい。	

研究の視点に迫る 手立て

聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えさせるために、「木片のための音楽」から感じ取った面白さを、音楽を形づくっている要素を根拠に話し合わせる。

グループで思いや意図を共有化するために、始め・中・終わりの構成を提示する。

つくった音楽から感じたことと自己のイメージとを関連付けて捉えさせるために、作品を録音し客観的に聴いて題名を考えさせる。

表現に対する思いや意図が膨らむように、題名を手掛かりに、録音を聴きながら、音色や音楽の縦と横との関係を工夫する活動を繰り返させる。

聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えられるようにするために、どのような思いをもってつくった作品かを交流しながら、音楽を形づくっている要素とその働きの視点をもって聴き合わせる。

7. 本時の目標

自分たちのイメージによりふさわしい表現となるよう、音色や音楽の縦と横との関係を工夫することで、まとまりを意識した音楽をつくることについて思いや意図をもつ。

8. 本時の展開

主な学習活動 見方・考え方を働かせている姿 	○教師の働きかけ ◇配慮を要する児童への手立て ◎評価規準
1 常時活動を行った後、児童の作品を聴き、前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を設定する。	○これまで学習した図形カードを使って打楽器遊びを行い、音色や音楽の縦と横との関係に着目させる。
学習課題 題名にもっとふさわしい音楽になるように工夫しよう。	
3 グループで作品を工夫する。 音だけ聴いて、題名がイメージできるように、どんな工夫ができるかな。 ・題名が「秋のはじまり」だから、小さくはじまってだんだん大きくなると感じが出るよ。 ・①と②のリズムのところを、かくれんぼみたいに強い部分と弱い部分を繰り返してみよう。 ・リズムが変化するところをだんだん大きくすると、なんかワクワクするんじゃないかな。やってみよう！ ・楽器やたたき方を変えて音色を変えたら、一つ一つの音がもっとはっきり聴こえてイメージに合うよ。 4 録音を基に、表現をさらに工夫する。 ・音の重なりがはっきり聴こえてだんだん大きくなっていていっているところが、にぎやかな様子で前より題名のイメージに合ってるね。 ・楽器の音色が金属でできた楽器でそろえると、可愛い感じになったね。題名に合わせてもっと可愛くするには、どこを変えたらいいかな。 5 本時の振り返りをする。	研究の視点に迫る手立て 表現に対する思いや意図が膨らむように、題名を手掛かりに、録音を聴きながら、音色や音楽の縦と横との関係を工夫する活動を繰り返させる。 ○作品を録音し、聴かせることで自分たちの思いや意図に合った表現になっているか確認させる。 ○グループでの話合いに教師が適宜参加し、表現が高まったことを価値付ける。 ◇取り上げる音楽を形づくっている要素を焦点化し、工夫させる。 ◎音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (グループ内の発言・行動観察・振り返りカード) ○自分たちのイメージによりふさわしい表現となっているか意識して振り返りを行い、表現の高まりを自覚させる。